

(9) 中国



中国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

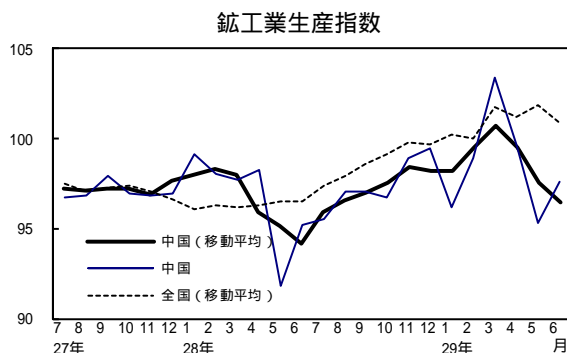
前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年5月)	今回(平成29年8月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
鉱工業生産	持ち直し	このところ横ばい	
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。

4～6月期には、輸送機械は、欧米向け輸出等の影響により増加した。化学は、設備定期修理等の影響で減少。はん用・生産用・業務用機械は、出荷が多かった前期の反動により減少した。鉄鋼は、普通鋼鋼管等が増加したものの、おおむね横ばい。電子部品・デバイス、国外向け車載用の生産が減少したこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)

(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.5	3.1	2.6	3.4	13.6	6.6
化学	16.4	8.2	4.7	0.6	12.1	1.3
はん用・生産用・業務用機械	11.2	1.5	9.1	18.3	4.2	1.6
鉄鋼	7.7	1.4	0.1	1.2	2.7	1.2
電子部品・デバイス	7.1	1.7	2.3	2.5	0.6	2.7
鉱工業	100.0	1.1	2.0	3.6	4.4	2.4

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

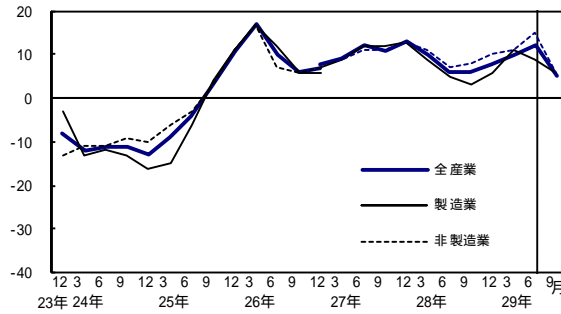
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4～6月期、6月は速報値。

(9) 中国

(2) 業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

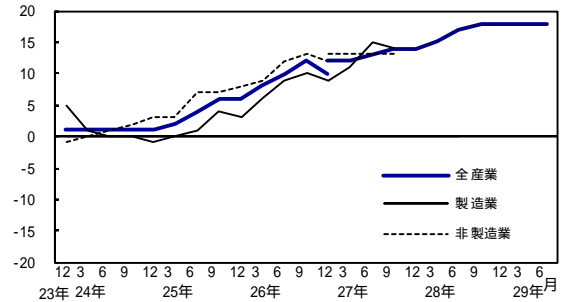
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



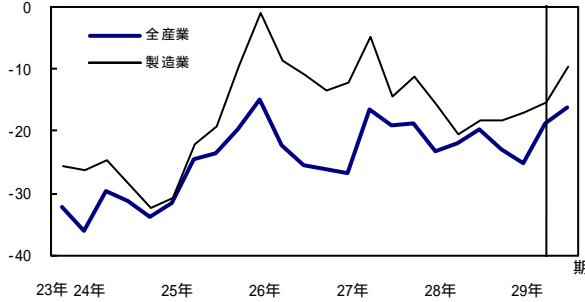
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



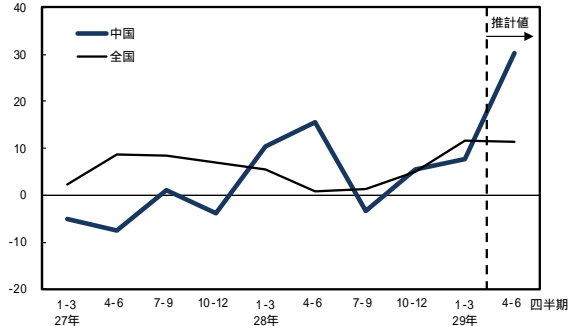
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「製造業が6月以降はずっと低調で期待していたほどには業績が伸びていない。また、公共工事も低調気味であり、全体の雰囲気を引きずられるようにサービス業も今一つの状況である (会計事務所)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費 (前年同期比) の推移



(備考) 29年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業	4.7 (4.4)	10.6 (4.9)
製造業	14.8 (4.7)	22.2 (11.1)
非製造業	8.0 (3.9)	7.8 (6.1)

(備考) ()は前回 (3月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.7%増、5月は同0.6%増、6月は同0.6%減となった。

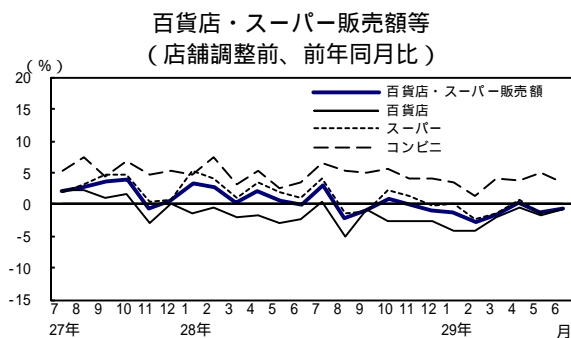
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、衣料品全般が苦戦しており、アクセサリーや婦人靴、紳士靴、ハンドバッグ、寝具なども低調で、前年を下回った。5月は、衣料品の低迷が続き、アクセサリーやハンドバッグ、家庭用品、寝具なども低調で、飲食料品も催事の苦戦などで伸び悩み、前年を下回った。6月は、衣料品の低迷が続き、飲食料品も催事の減少などにより伸び悩み、家具、インテリアも低調で、前年を下回った。

スーパーは、4～6月期は、飲食料品は売行きが良かったものの、家庭用品、インテリア関連が低調であったことなどから全体としては前年を下回った。

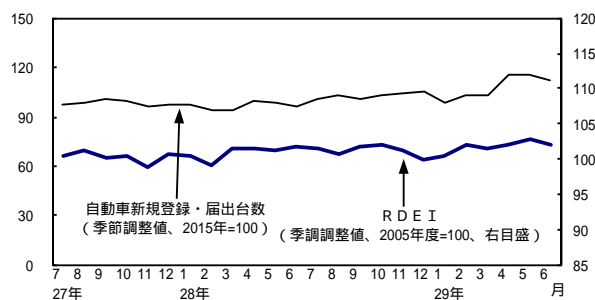
景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「郊外の店舗では海の日を中心とした三連休の売上が良くなっているが、住宅地に立地する当店では来客数が前年より減少し、特に三連休の売上が悪く、商品がかなり余っている (コンビニ)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.0	0.7	0.6	0.6
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.4	1.4	0.7
百貨店(*2)	1.0	0.5	1.7	0.7
スーパー(*2)	0.4	0.8	1.3	0.7
コンビニ(*2)	4.1	3.7	5.1	3.4
乗用車(*3)	16.3	14.4	17.8	16.7
(季節調整値)(*3)	12.1	11.5	0.1	2.6

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

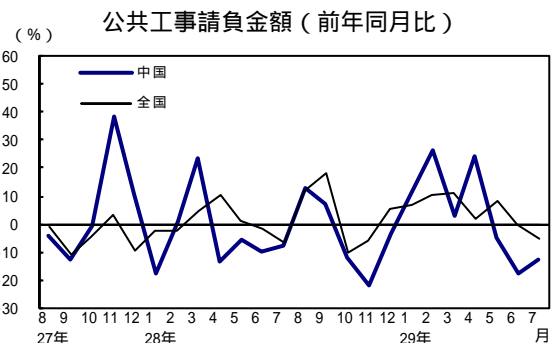
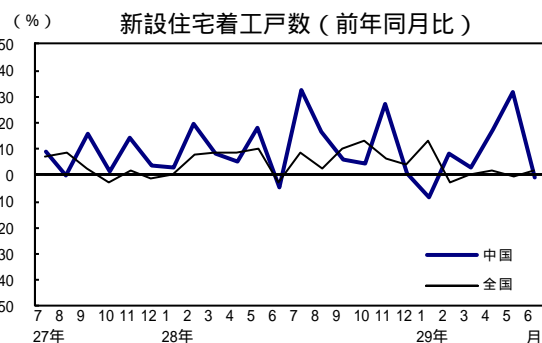
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲いずれも前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は29年度累計で見るとほぼ同水準となっている。

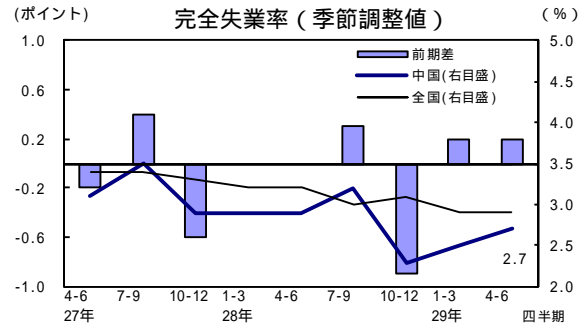
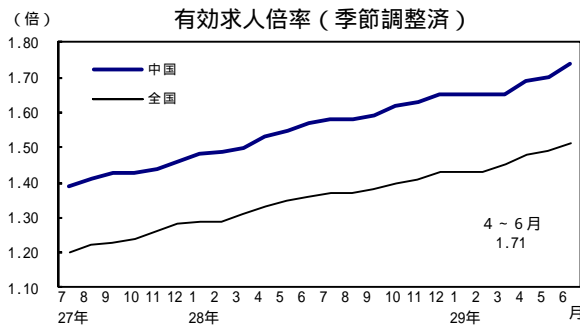


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[雇用関連(現状)]

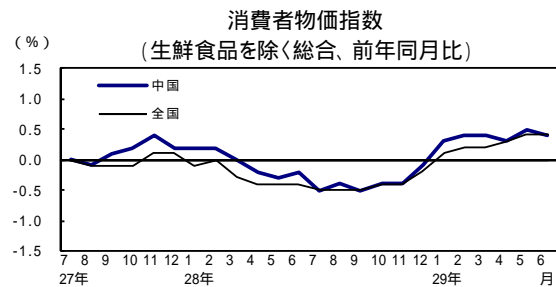
「人手不足の企業が多いが、求人の反響は鈍く、労働意欲が湧く施策が必要である(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	93	74	93	80	24
(前年比)	6.9	12.9	2.2	11.1	33.3
負債総額	122	575	567	85	56
(前年比)	34.5	338.8	267.9	41.2	40.2



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・6月にクリアランスセールが前倒しになり、暑さが増した7月に入って割引率が大きくなっている。化粧品や特選品の売上は前年並みであるが、クリアランス商材と定価品の動きは前年より悪く、衣料品は非常に厳しい状況である(百貨店)。

<先行き>

- ・来客数は増えず、客単価も低いまま現状が続く(衣料品専門店)。

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

